

売上額·収益D

資金繰り

D

10 年間

の

推移(業況D

D

Ď

Pやや改善、

製

造

業

見来業

通期況

しはは

ほや

ぼや 横改

ば善

 $\mathcal{O}$ 

前期

今期

見通し

建

設

業

見来業

通期況

しはは

横や ばや

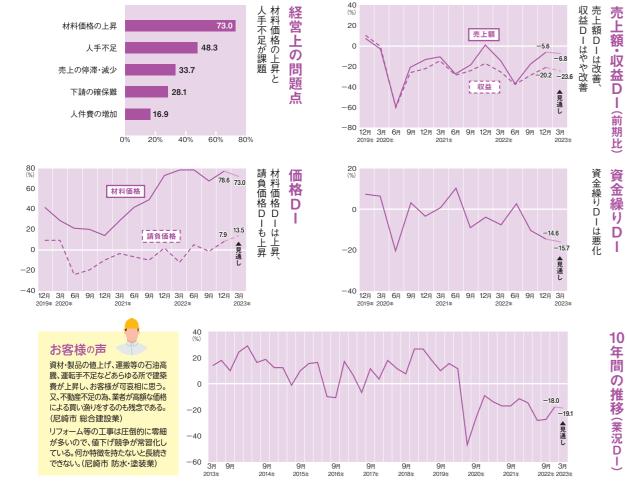
い改

の善

前期

今期

見通し



今回のアンケート調査は、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響を受けながらも、社会全体 が新たな行動制限を加えず、経済情勢が正常化に向かいつつある中で実施いたしました。

今期の全業種の業況DIは前期比9.7ポイント改善し▲17.2となり、前期と比較して上昇の兆 しがみられ、全体の景況判断としてはやや改善の状況となりました。しかしながら、来期の見通しに ついては不動産業以外の業種が横ばいやマイナス予想となっており、本格的な回復にはもう少し 時間を要するものと思われます。今後も経済活動の正常化が一段と進むことが予想されますが、 原材料や電力価格の上昇、それに伴う生活必需品の値上げなどマイナス要因も多く引き続き経済 動向に注視していく必要があります。

## 景気 D 向 リラス 別期 比 **(7)** 況

小 12

依頼先数 回答数 調査時点/2022年11月11日~11月30日 調查的無人2022年11月11日~11月30日 調查的基人当庫取引先 調查方法/郵送調查 調查対象期間/[今期]2022年10月~12月 [前期]2022年7月~9月 [来期]2023年1月~3月 1538社 452社 29.4% 回答数 依頼先数 回答率 394社 | 135社 | 34.3% 159社 44社 27.7%

35社 30.2%

25.8%

89社

-20

116社

345社

10

分析方法/「増加」(上昇)したとする企業の 占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業 の構成比との差(DI)により分析を行った。

\*\*DI: Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)

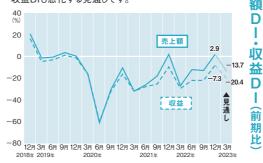
売上額DIは2.9(前期▲12.5)で大幅に改善、収益DIは ▲7.3で改善しました。来期は売上額DIは大幅に悪化、 収益DIも悪化する見通しです。

201社

323社 | 89社 | 27.6%

60社

29.9%



価格は仕入価格DIが70.6(前期69.1)と横ばい、販売 価格DIが27.8(前期19.0)でやや上昇しました。来期は



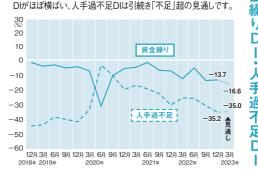
資金繰りDIは▲13.7(前期▲14.4)で横ばい、人手過不足DIは ▲35.2(前期▲31.0)で「不足」超となりました。来期は資金繰り DIがほぼ横ばい、人手過不足DIは引続き「不足」超の見通しです。

3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月

全業種の業況DIは▲17.2(前期▲26.9)でやや改善。

内訳は製造業が▲13.3(前期▲23.3)で、非製造業が

▲19.0(前期▲28.4)となっています。来期は悪化の見通しです。





全業種総合DI

業況D

の

推

B

見

通

資金繰 4) D



前期 全期 見通し





経営上の問題点

価格D

8品物件の不足が課題8品物件の高騰に加え

販売価格D·

40%

-80

仕入価格

販売価格

-60 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 6月 9月 12月 3月 2019年 2020年 2021年 2022年 2022

商品物件の高騰

商品物件の不足

売上の停滞・減少

同業者間の競争の激化

60

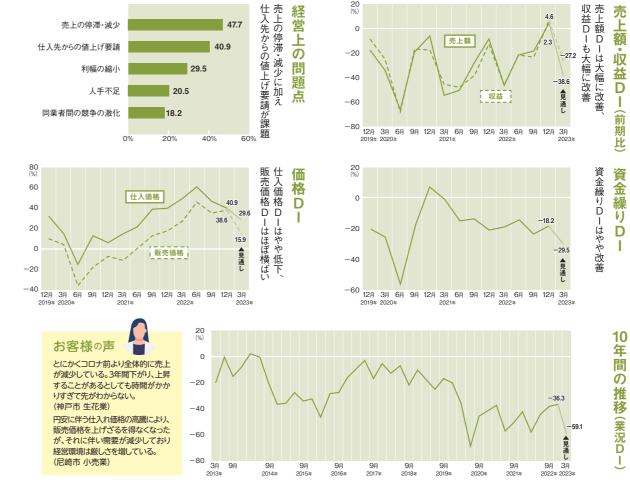
40

20

-20

-40

利幅の縮小



推移(業況D

小

売

業

見来業

通期況

畑し 対は大幅に悪い

化以